

邦政府の支援は極めて多岐にわたっている。芸術家個人や芸能団体、あるいは美術館の運営経費を援助したり、国内および国外での巡業や移動展示のために資金を出したりする直接的な支援から、劇場やコンサートホールの新築・修復についての援助、カナダ関係の本や美術雑誌の出版・宣伝・配布面での援助、全国的な放送事業や映画の制作配給機関の維持、芸術作品の輸出入に対する規制措置、さらには保護的性格を持った各種の立法措置といった間接的な支援に至るまで、その幅は広い。また、州政府の支援も連邦政府に劣らず活発である。したがって、全体としては、カナダ文化の発展に対する投資は莫大なものになっている。金額で言えば、連邦政府の援助額はCBCを除いても年間約一億五千万ドルに達する。州や市町村の援助も、これとはほぼ同額である。

これはあまりに大きすぎる額ではないか、これでは政府が出しやばることにはならないか、と問う向きもあろう。また、アルビン・トフラーが指摘するように、想像力に富んだ財政政策を行うことこそ政府が芸術に援助の手をさしのべる最良かつ最も簡単な方法なのであり、審美的な問題に政府の出る幕はないとして、カナダ政府の政策や行政に異議を唱える人もいるかも知れない。

これは重要な問題である。政府機関は、どの個人とどの組織にどれだけの援助を与え、どこには与えないということを決定的なことによって、カナダ文化の進むべき道を指し示しているといえるだろうか。それとも、文化界が自らの手によって成長し、発展していくのに対して、た

だその必要に応じているだけなのだろうか。すでに基準がつけられ、選択もなされている以上、政府がある程度方向づけをしているということは言える。しかし、カナダで現在行われている、芸術に対する公共の援助が、国家をスポンサーとする「国営」文化を講成するにはほど遠い。

連邦政府は、もちろん、その一存だけでカナダの文化を発展させる任に当たってきたわけではない。連邦政府の関与は、すべて選挙民の強い要請があつたからこそできたのである。芸術の自由を守るためには、公的・私的を問わず、様々な出所の支援のあることがおそらく最も望ましい。合衆国と同様、カナダでも、支持者は多様で数も多い。寄付にはすべて何らかの条件がつくものであるが、連邦政府は、芸術に対して政治的介入が行なわれ

ないようにするため、政治とは一定の距離を置いて文化団体を設立する——との立法措置を講ずることによって、その自由と自律的な活動を保障した。一般に、そのような機関や団体は、政府によって任命された評議員会が運営している。こうした評議員会は、實際上、その決定の責任を政府ではなく議会に対して負い、

毎年、活動報告を議会に提出している。また、カナダ国民は政治的介入のいかなる徴候に対しても敏感に反応するが、このことも、政治的介入から芸術の自由を守る上で大変重要な役目を果している。政府の影響力の行使は、主として、政府機関に対する基金の割当について毎年一回議会の票決を求め、割当の一般的優先順位を定めるという形で行われる。した



がつて、その関係は、指示というようなものではなく、わずかに指導をほのめかすていどと言えば、多分最も正確に特徴づけることができるだろう。政府が介入し過ぎているのではないかとの懸念を払い除けてもらうには、政府の関与によつてどのような結果があらわれているかを説明することが一番いいだろう。

文化政策の効果

まず、視覚芸術や舞台芸術から取り上げよう。カナダ文化振興会の働きによって、約二〇年間で、カナダ中に劇場やオーケストラや舞踊団体のネットワークが誕生した。その結果、俳優、音楽家、作曲家、脚本家、画家、彫刻家、舞踊家などが、カナダで暮し、創作し、活動することができるようになり、さらに経済的に豊かになることがなくても、少なくとも飢えずに済むようになった。また、カナダ人の観客は、これらのカナダ人芸術家の作品を見聞きし、直接鑑賞できるようになった。カナダの博物館や美術館は、かつてない程、その数が増えただけでなく、人の入りも多くなった。同じことは劇場やコンサート・ホールについても言える。国の調査によると、一九七五年には、カナダ国民の三人に一人が、調査された六十八団体のうちのどれかの公演を少なくとも一度は観ている。このことは、われわれとしても誇るに足る、きわめて大きな成果といえよう。なお、調査には、外国からの公演は含まれていない。

アート・バンク●カナダ文化振興会は、アート・バンク計画に基づいて、カナダの現代作家の作品を買い上げ、連邦政府の部局や機関に公共の場所や会議室に貸し出して飾ってもらっている。この計画は、作品の購入を通してカナダ人芸術家を援助し、また、より多くのカナダ人に現代カナダ美術を楽しんでもらう、という二つの目的をもっているが、さらには、個人や法人の収集を刺激することができれば、といった期待もある。この五年間に、振興会は四〇〇万ドル以上を費して、約